愛知工業大学研究報告
第33号 A　平成10年

大学ラグビー選手の心理的競技能力
～競技経験，バランス，開始時期についての検討～

A research of trait phychological-competitive ability for college rugby players.
~About experience, balance and beginning time~

岡本　昌也†　，　高津　浩彰††　，　寺田　泰人†††
Masaya OKAMOTO Hiroaki TAKATSU Yasuto TERADA

abstract This research is to examine about trait phychological-competitive ability for college rugby player. Top level players (N=39) and normal level players (N=48) were examined in this research. The results are followd-
1.Trait phychological-competitive ability of top level players are higher than that of normal level players.
2.The balance of trait phychological-competitive ability is unfaired in both level.
3.About beginning time ,The younger isn't the better in development of trait phychological-competitive ability.

1．はじめに

年齢の増加にともない身体的能力が変化することは，周知のことである．特に，児童期から青年期にかけての体力は著しく増進し，その影響による競技力の向上に役立っている．同じように，精神的能力も加齢とともに発達し，その能力の優越によってパフォーマンスの発揮が異なってくると考えられる．スポーツ選手は，より優れた技術，体力を練習で習得し，試合に勝利することを目標にしている．しかし，優れた技術，体力も精神力によって制御され，思うように目標を達成することができないことも多く見られる．

現在の日本のスポーツ環境において，トップレベルの選手を除けば，精神力のトレーニング（メンタルトレーニングなど）は，あまり行われておらず個人の能力，練習の量でまかなわれていることが多いと考えられる．競技経験が長ければ，技術の向上は見られるが，精神力の向上については今だに検討されていない．特に，ラグビーの世界では筋力トレーニングや食事などを重視し，精神力の研究については，他のスポーツと比べて遅れているといえる．

寺田ら[1]は，高校生ラグビー選手を対象に心理的競技能力の調査を行い，その特徴を明らかにしている．しかし，大学生ラグビー選手についての資料はまだ得られていない．

本研究の目的は，大学ラグビー選手の心理的競技能力を徳永ら[2]の作成した心理的競技能力診断検査を用いて調査し，競技レベルによる心理的競技能力の差，心理的競技能力のバランス，競技開始時期と心理的競技能力の関係をそれぞれ検討する．

2．方法

大学ラグビー選手（平成７年東西対抗出場選手３９名，平成７年東海学生リーグ出場選手４８名）を対象に心理的競技能力診断検査(DIPCA.2)を実施した。選手の年齢，競技経験については表１，図１に示したこれらのデーターをもとに，以下のことを検討する．

（１）所属レベルと心理的競技能力の関係をT検定を用いて検討する．

† 愛知工業大学基礎教育系健康科学教室（豊田市）
†† 豊田工業高等専門学校一般学科（豊田市）
††† 市邨学園短期大学商経科（犬山市）

（2）バランスについては得点を総得点に対するパーセンテージで示し，レーダーグラフを作成することによって検討する.

（3）競技開始時期と心理的競技能力得点の関係を分散分析（1要因3水準）を用いて検討する。

表1　大学ラグビー選手の年齢と競技経験

	東西対抗参加レベル	東海学生リーグ	t検定
サンプル数	39	48	
年齢（歳）	21.3(SD=1.09)	20.96(SD=0.92)	n.s
経験（ヶ月）	106.03(SD=38.80)	64.23(SD=25.49)	**

**p>.01

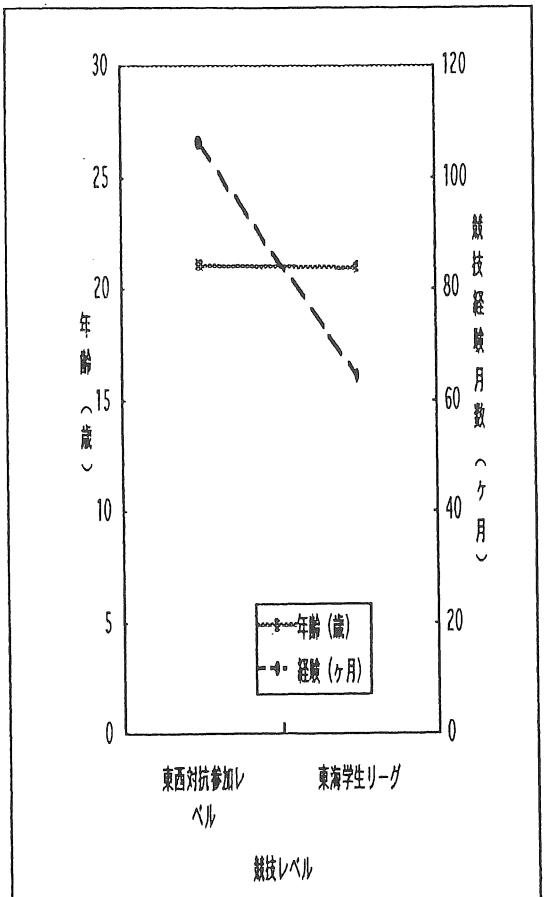

図1　大学ラグビー選手の年齢・経験月数

3．結果と考察

調査対象選手の中で，東西学生対抗参加選手と東海リーグ参加選手の年齢について有意な差は見られなかった．（表1）競技経験月数に1％水準で有意な差が見られた．（表1）これは，東西学生対抗参加選手が東海学生リーグ参加選手よりも豊富なラグビー経験があることを示している.

所属レベルによる心理的競技能力の違いを調べるために，東西学生対抗参加選手と東海学生リーグ参加選手の比較を　総得点，各因子，各尺度についてT検定を用いて行った．（表2）その結果，総合得点について1％水準で有意な差が見られた．因子については，競技意欲因子（1％水準），精神の集中／安定因子（5％水準），自信因子（1％水準），作戦能力因子（5％水準）で有意な差が見られた．尺度については，闘争心（1％水準），自己実現意欲（1％水準），勝利意欲（5％水準），リラックス（5％水準），自信（1％水準），決断力（1％水準），予測力（5％水準），判断力（5％水準）で有意な差が見られた．これらの結果から，大学選手権上位チームから選出され，将来の日本代表候補と考えられている東西対抗参加選手は東海学生リーグ参加選手より心理的競技能力が優れていると考えられる．つまり，大学の競技レベル差が心理的競技能

表2　大学ラグビー選手の心理的競技能力得点

心理的競技能力/レベル	東西対抗参加レベル	東海学生リーグ	t検定
忍耐力	14.13(SD=2.618)	13.58(SD=2.797)	n.s
闘争心	16.85(SD=2.357)	14.69(SD=3.598)	**
自己実現意欲	16.44(SD=2.542)	14.67(SD=3.569)	**
勝利意欲	15.54(SD=2.512)	14.35(SD=2.670)	*
自己コントロール	16.05(SD=2.991)	15.00(SD=2.873)	n.s
リラックス	15.08(SD=2.823)	13.44(SD=3.451)	*
集中力	16.67(SD=2.558)	15.67(SD=2.731)	n.s
自信	13.08(SD=2.486)	11.33(SD=3.309)	**
決断力	13.36(SD=2.680)	11.44(SD=3.141)	**
予測力	12.97(SD=2.580)	11.54(SD=3.281)	*
判断力	12.87(SD=2.736)	11.40(SD=3.140)	*
協調性	15.23(SD=3.320)	15.02(SD=3.291)	n.s
競技意欲因子	62.95(SD=7.684)	57.29(SD=10.355)	**
精神の集中・安定因子	47.79(SD=7.342)	44.10(SD=7.543)	*
自信因子	26.44(SD=4.712)	22.77(SD=6.071)	**
作戦能力因子	25.85(SD=4.913)	22.94(SD=6.173)	*
協調性因子	15.23(SD=3.320)	15.02(SD=3.291)	n.s
総合得点	178.26(SD=21.267)	162.13(SD=21.935)	**

*p>.05,**p>.01

力に影響し，競技レベルが高ければ，心理的競技能力もより発達しているということである．これらの原因は，個別的なこともあるが，練習の量や質，対戦相手のレベル，選手の動機づけなど様々なことの影響があると考えられる．

次に，心理的競技能力のバランスについて考えてみる．各レベルについて，総得点を１００とした時の尺度，因子のパーセンテージを表３，に示した．闘争心，自己実現意欲，自己コントロール，集中力について割合が高いことがわかる．図２に因子の割合を示した棒グラフを作成した．各因子の割合を見ると，競技レベルが変わっても割合としてはあまり変わらないことがわかる．図３に尺度のバランスを示したレーダーグラフを作成した．右半分の円が大きく，左半分がやや小さいことがわかる．これらの結果から，両レベルとも自信因子に関する能力と作戦能力に関する能力がバランス的に劣っていると考えられる．これらの能力については，メンタルトレーニングを行ったり，練習にこれらの要素を含ませるなどして能力の向上を目指すべきである．

表３大学ラグビー選手の心理的競技能力の割合
（各得点/総合得点）×100 ＜％＞

心理的競技能力/レベル	東西対抗参加レベル	東海学生リーグ
忍耐力	7.93%	8.38%
闘争心	9.45%	9.06%
自己実現意欲	9.22%	9.05%
勝利意欲	8.72%	8.85%
自己コントロール	9.00%	9.25%
リラックス	8.46%	8.29%
集中力	9.35%	9.67%
自信	7.34%	6.99%
決断力	7.49%	7.06%
予測力	7.28%	7.12%
判断力	7.22%	7.03%
協調性	8.54%	9.26%
競技意欲因子	35%	35%
精神の集中・安定因子	27%	27%
自信因子	15%	14%
作戦能力因子	15%	14%
協調性因子	9%	9%
総合得点	100%	100%

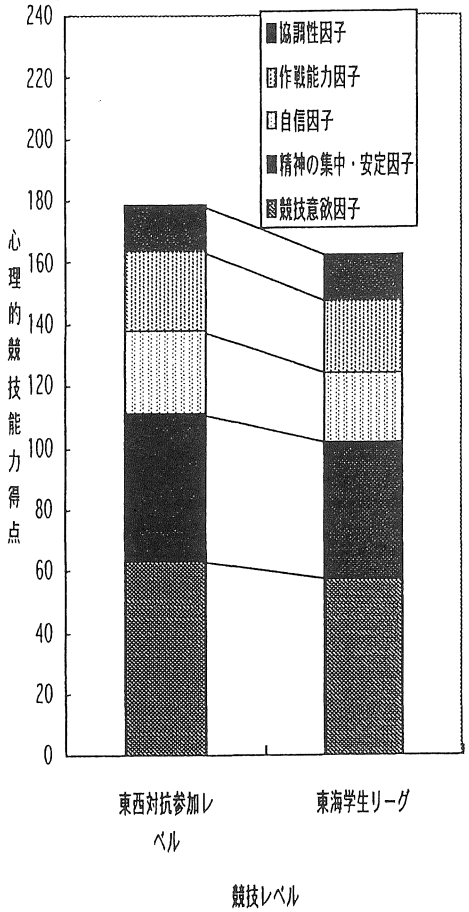

図2 大学ラグビー選手の心理的競技能力（因子

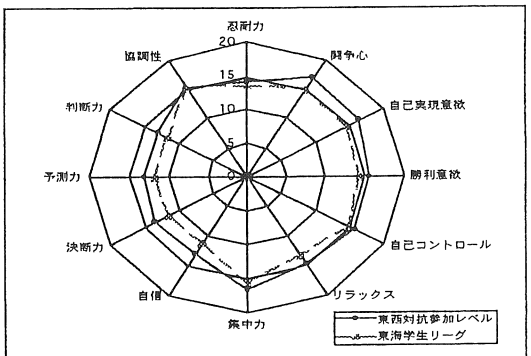

図3 大学ラグビー選手の心理的競技能力（１２尺度）

開始時期の心理的競技能力への影響を調べるために，被験者全員を児童期開始群，中学開始群，高校以降開始群の３群に分類し（表４），総得点，各因子，各尺度について１要因３水準の分散分析を行った．その結果，総得点，ほとんどの因子，尺度において差が見られなかった．（表５）これは，競技経験が長いからといって心理的競技能力が発達するとは考えられないことを示唆している．

表４　大学ラグビー選手の開始時期別年齢と競技経験の平均と標準偏差

	児童期開始	中学開始	高校以降開始	F値
サンプル	18	31	38	
年齢（歳）	20.83(SD=1.10)	21.10(SD=1.01)	21.00(SD=0.90)	n.s
経験（ヶ月）	138.00(SD=35.75)	84.65(SD=18.08)	55.50(SD=16.90)	**

** p<.01

表5　大学ラグビー選手の競技開始時期別からみた心理的競技能力平均得点と標準偏差

心理的競技能力レベル	児童期開始	中学開始	高校以降開始	F値
忍耐力	14.60(SD=2.18)	13.19(SD=3.04)	14.24(SD=2.63)	n.s
闘争心	16.39(SD=3.09)	15.55(SD=3.56)	15.39(SD=3.14)	n.s
自己実現意欲	15.94(SD=3.30)	15.16(SD=3.07)	15.47(SD=3.44)	n.s
勝利意欲	14.89(SD=3.08)	14.87(SD=2.86)	14.89(SD=2.31)	n.s
自己コントロール	16.00(SD=3.05)	15.87(SD=2.95)	14.89(SD=2.89)	n.s
リラックス	14.89(SD=3.14)	14.55(SD=3.06)	13.53(SD=3.45)	n.s
集中力	16.56(SD=2.25)	16.61(SD=2.79)	15.50(SD=2.73)	n.s
自信	12.33(SD=2.87)	11.94(SD=3.31)	12.16(SD=3.05)	n.s
決断力	13.22(SD=2.46)	12.26(SD=3.33)	11.89(SD=3.12)	n.s
予測力	13.17(SD=2.68)	12.03(SD=3.28)	11.84(SD=3.01)	n.s
判断力	13.17(SD=2.48)	11.68(SD=3.27)	11.84(SD=3.04)	n.s
協調性	14.94(SD=3.10)	14.29(SD=3.80)	15.87(SD=2.80)	*
競技意欲因子	61.28(SD=9.56)	58.77(SD=10.63)	60.00(SD=8.94)	n.s
精神の集中・安定因子	47.44(SD=7.63)	47.03(SD=7.75)	43.92(SD=7.34)	n.s
自信因子	25.56(SD=5.06)	24.19(SD=6.24)	24.05(SD=5.77)	n.s
作戦能力因子	26.33(SD=4.60)	23.17(SD=6.29)	23.68(SD=5.80)	n.s
協調性因子	14.94(SD=3.10)	14.29(SD=3.80)	15.87(SD=2.80)	n.s
総合得点	175.56(SD=22.30)	168.00(SD=25.88)	167.53(SD=20.78)	n.s

* p<.05

４．まとめ

本研究の結果から，以下のことが明らかにさた．

（１）所属競技レベルが高いところに所属した選手は低いレベルに所属をしている選手よりも心理的競技能力が高いということが示唆された．

（２）大学ラグビー選手の心理的競技能力のバランスには，かたよりがあることが示唆された．

（３）競技開始時期が早いことは必ずしも心理的競技能力の発達に影響するとは限らないことが示唆された．

参考引用文献

１）寺田泰人，岡本昌也，高田正義，高津浩彰；
高校ラグビー選手の心理的競技能力に関する研究
名古屋経済大学，市邨学園短期大学人文科学研究会人文科学論集第５７号ｐ３９～４４　１９９６

２）徳永幹雄，橋本公雄；
心理的競技能力診断検査用紙
トーヨーフィジカル発行　１９９１

*本研究は，平成８年度基礎教育系の研究費（重点配分）の援助を受けました．

（受理　平成10年３月20日）